



COVID-19 ワクチンのいくつかは、ワクチンの開発と製造のさまざまな段階で、胎児組織を由来とする細胞（しばしば胎児細胞と呼ばれる）を使用しています。そのうちの一部は中絶胎児の組織に由来しています。胎児細胞株の使用は、一部の信仰を持つ方々のコミュニティ内、及びそのような由来を持つ素材を使用することへの倫理に懸念を持つ個人の間で非常に敏感かつ重要な事柄です。

COVID-19 ワクチン接種に関して十分な情報に基づいた決定を下すには、すべての人が適切な情報をすべて得ていることが重要です。ワクチン開発に於ける胎児細胞株の使用について質問または懸念がある場合は、ワクチン接種を決定する際に、本配布資料に記載されている情報を参照し、以下の考慮事項に留意してください。

- 私たちが病気の伝播の連鎖を断ち切り、COVID-19 から地域を守るためには、一般市民の圧倒的多数がウイルスに対するワクチン接種を受ける必要があります。
- ワクチン接種によって、あなたが保護されるだけでなく、あなたのご家族、友人、そして COVID-19 により重篤な病気になるリスクの高いコミュニティ内の最も弱い人々をも保護されます。
- COVID-19 ワクチン接種のリスクと利点は人によって異なるため、各人がかかりつけ医とそれについて相談することを検討することが推奨されます。
- いくつかの宗教及び生命倫理グループが、現在の COVID-19 ワクチン接種に関する倫理的考慮事項について検討及び発言しています。それらの考慮事項の多くを以下に引用します。
- ワクチンの供給には限りがあり、多くの場合、接種可能な COVID-19 ワクチンを選択することはできません。
- 個人は、信仰の指導者や生命倫理に関して知識がある人と個人的に相談したいと思うかもしれません。

## なぜ胎児細胞がワクチンの製造に使用されるのですか？

歴史的な胎児細胞株は、1960 年代と 1970 年代に、A 型肝炎、風疹、狂犬病などの病気のワクチンを製造するために使用された 2 つの選択的中絶による胎児組織に由来しています。胎児細胞が得られた中絶は母親の選択によるものであり、ワクチン開発の目的で行われていません。

COVID-19 ワクチンとなる可能性のあるワクチンのいくつかを生産するために使用されている胎児細胞株は、以下の 2 つ細胞株に由来します。

- HEK-293 : 1973 年に胎児から分離された腎臓細胞株（**出所不明**、自然流産または選択的中絶のいずれかから）
- PER.C6 : 1985 年に中絶した胎児から分離された網膜細胞株

これらの歴史的な細胞株に依存するワクチンは、新たな中絶を必要とすることはありません。

一部のワクチンを開発及び製造するにあたり、製薬会社は他の細胞よりもヒト細胞株の使用を好みます。これは、1) ウイルスはその増殖に細胞を必要とし、動物よりもヒトの細胞で良く増殖する傾向がある（ウイルスはヒトに感染するので）、2) 胎児細胞は他の細胞タイプよりも長く使用できる、3) 胎児細胞は低温で保存できるので、科学者は数十年前の細胞株を使い続けることができるためです。胎児細胞株は COVID-19 ワクチンの開発または製造に使用されていますが、ワクチン自体には**中絶胎児細胞は含まれていません**。開発中の COVID-19 ワクチンの包括的なリストと、中絶胎児組織由来の細胞株との関連については、[こちら](#)をご覧ください。



## ファイザー（Pfizer）とモデルナ（Moderna）の COVID-19 ワクチンは、胎児細胞株を使用して開発されましたか？

ファイザーとモデルナが製造する mRNA COVID-19 ワクチンは、ワクチンを製造するために胎児細胞培養を使用する必要はありません。

mRNA ワクチン技術の開発の初期には、胎児細胞は「概念実証」（細胞が mRNA を取り込み、SARS-CoV-2 スパイクタンパク質を生成する方法を示すため）、または SARS-CoV-2 スパイクタンパク質の特性評価に使用されていました。

ファイザーワクチンとモデルナワクチンは、プロライフ政策組織である [シャーロット・ロジェ・インスティテュート \(The Charlotte Lozier Institute\)](#) によって倫理的に議論の余地はないことが判明しています。さらに、米国カトリック司教協議会の委員会である [プロライフ活動事務局](#) は、次のように述べています。「ファイザーもモデルナも、ワクチンの開発または製造に中絶胎児組織由来の細胞株を使用しません。但し、これらの細胞株は、いずれのワクチンとも、その有効性試験にこれらの細胞株を使用しています。したがって、どちらのワクチンも中絶胎児組織由来の細胞株を完全に使用していないわけではありませんが、これら2つのワクチン開発に於ける細胞株の使用は、最初に行われた中絶という悪なる行為からは非常にかけ離れたものです...臨床的に推奨されるいずれかのワクチン接種は、中絶という不道徳な行為を受け入れるという良心の呵責を持つことなく受けることができます。」

## ジョンソン&ジョンソン (Johnson & Johnson) (ヤンセンファーマ (Janssen Pharmaceuticals)) COVID-19 ワクチンは、胎児細胞株を使用して開発されましたか？

ジョンソン&ジョンソンによって製造されている非複製ウイルスベクターワクチンは、ワクチンを生産及び製造するために、胎児細胞培養、特に PER.C6 の使用を必要としました。 [カトリック教会](#)、及び [So 南部バプテスト倫理・宗教自由委員会](#) はいずれも、生産または製造に胎児細胞株を必要とする COVID-19 ワクチンの接種は道徳的に許容できると述べています。 [米国カトリック司教協議会](#) はさらに進んで、次のように述べています。「COVID-19 ワクチン接種は、私たちの地域の人々に対する慈善行為として理解されるべきです。このように、COVID-19 に対して安全にワクチン接種がなされることは、私たちの隣人への愛の行為であり、公益に対する私たちの道徳的責任の一部と見なされるべきです...現在の危機の緊急性、利用可能な代替ワクチンの欠如、及び数十年前に発生した中絶と今日製造されたワクチン接種との関係が遠いことを考えると、これらの状況での新しい COVID-19 ワクチンの接種は道徳的に正当化されます。」

2021年3月2日、米国カトリック司教協議会は、ジョンソン&ジョンソンの COVID-19 ワクチンの使用に関する声明を発表しました。司教は以下のように述べています：「同等に安全で効果的な COVID-19 ワクチンの中から選択できるのであれば、中絶胎児組織由来の細胞株との関連性が最も低いワクチンを選択する必要があります。したがって、ワクチンを選択できる場合は、ジョンソン&ジョンソンのワクチンよりもファイザーまたはモデルナのワクチンを選択してください...製薬会社は中絶胎児組織由来の細胞株の使用をやめるように主張し続ける必要がありますが、このパンデミックが引き起こしている世界的な苦痛を考えると、ワクチン接種は公益に役立つ慈善行為であることを改めて確認するものです。」

[カトリック教会](#) は次のように述べています。「しかし、良心の理由で、中絶胎児組織由来の細胞株で生産されたワクチンを拒否する人々は、他の予防手段と適切な行動によって、感染物質の伝播の媒体にな





ることを避けるために最大限の努力をしなければなりません。特に、医学的またはその他の理由でワクチン接種を受けることができない、最も脆弱な人々の健康へのリスクを回避する必要があります。」

### 詳細情報はどこで見つけられますか？

ワクチンの開発または製造に於ける中絶胎児細胞の使用に反対する一部の宗教団体及び生命倫理研究所は、倫理的な代替手段がない場合、個人がこれらのワクチン接種を倫理的に受けることができると述べています。

本問題に関するこれらのグループの詳細については、以下のリンクから確認してください。

- [国立カトリック生命倫理センター](#)
- [教皇庁生命アカデミー声明](#)
- [米国カトリック司教協議会](#)
- [バチカン-教理省の会衆](#)
- [ノースダコタカトリック会議](#)
- [シャーロット・ロジェ・インスティテュート](#)
- [柱-究極のカトリックコロナウイルスワクチンの道徳性の説明者](#)

ノースダコタ州保健局の許可の下、  
ノースダコタ州保健局の[配布資料](#)から転載。